山ガール 里山で大活躍　谷口文子さん

登山歴４０年、里山でボランティア１３年。根っから山好きの谷口文子さん（生環13期・鈴蘭台在住）に登場してもらおう。

谷口さんはグループ〈わ〉の里山和楽会（道満俊徳代表・12人）の発足メンバーで、北区山田町谷上にある「かがやきの森」（３ヘクタール）の里山整備に携わっている。この春には、近隣住民を招いて自然観察会を開催。和楽会のメンバーが十数人の参加者をかがやきの森一帯を案内した。谷口さんは植物にくわしく、樹木の名前や由来、性質の説明には欠かせない貴重な存在だ。今の季節は満開のアセビやツツジ、クロモジに囲まれて作業する時が一番楽しいという。

和楽会が里山整備に関わったのはＫＳＣのグループ学習の時から。当時の山の所有者に頼まれ、管理と整備を始めた。当時は雑木がびっしり生い茂っていて歩くのも大変だった。間伐を進め、散策コースを作り、50種ほどの樹木に名札をつけて、観察会を訪れた子供たちが安全に学習できるように、工夫して汗を流した。こうして、荒れ果てていた放置林がよみがえり、2016年には環境省の「里山五百選」にも選ばれた。

アウトドア派の谷口さんは20代の頃から山登りを続けており、自慢といえば「百名山」の踏破。「印象深いのは剣岳かな」。外国では中国・四川省のタークニアン（5025㍍）。ここでは体調を崩していやな経験をした。山登りは夏の単独行が多いが、今年3月の雪の日には、4時半に起きて六甲山の雪景色を楽しんできた。

ボランティアも幅広くやっており、手話ソング、昔遊び、フォークダンスなど、子供たちや施設のお年寄りに喜ばれる活動をしている。

谷口さんたち和楽会の悩みは里山に関心のある後継者がいないこと。「我々だけでも細々と続けるしかないなあ」というのがメンバーの現状だ。

（取材・写真　南形徹、）

ボランティアの現場 ⑧

和楽会の自然観察会で説明を聞く参加者（写真・芦田義和）

和楽会が自然観察会

15人参加、花の里山を散策

里山和楽会（道満俊徳代表）は4月5日10時から、かがやきの森東地区（山田町下谷上）で近隣住民ら15人が参加して春の自然観察会を開きました。春の陽気に恵まれ、道満・谷口・猿橋・待鳥の4人が説明役となって、満開のツツジやヤマザクラ、クロモジが咲き乱れる散策コースを約2時間歩きました。展望台では丹生山の眺望を楽しみながら里山の由来や10年に及ぶかがやきの森の整備の歴史に耳を傾けていました。